

1 研究主題 なかまとの対話を通して、学びを深めることができる子どもの育成
～互いの考えを共有し合い、自身と対話する活動も重視して～

2 研究主題設定の理由

令和2年度より本校では、「なかまとの対話を通して、学びを深めることのできる子どもの育成」を主題に掲げ、子どもたちの「伝える力」「聞く力」を育みながら、「互いの考えを共有し合う授業展開の工夫」を重視し、一人一人の思考力や表現力を育む対話型の授業を中心に授業研究に取り組んだ。

常時活動として、全校で「ソーシャルスキルトレーニング」に取り組んだことや、「ペアトーク」「グループトーク」などの活動を繰り返し行ったことは、「互いに認め合い、自分の考えを安心して話すことのできる学級の基盤づくり」に有効であったと感じる。また、令和3年度は「対話を通して自分の考えがどのように変化したのか」を自身と対話し、思考を巡らせるような活動も重視して授業実践を行ったことで、なかまの考えと自分の考えを比べながら聞こうとする姿が見られた。しかし、学年末のアンケート結果から、友達の話を理解しようと話を聞いていると実感できても、互いの意見を合わせて合意形成することや自分の意見を再考することへの難しさを感じていることが分かった。

そこで今年度は、なかまとの対話を通して、学びを広げたり深めたりできた子どもたち自身が実感できるようにするため、「対話する」場面で、ICTやホワイトボードなどの思考ツールを活用して、なかまの考えと自分の考えを視覚的に整理し、「振り返る」場面で「対話を通して自分の考えがどのように変化したのか」を自身と対話し、思考を巡らせるような活動も重視することで、目指す子ども像に迫りたいと考える。

3 研究の視点

目指す子ども像＝「なかまとの対話を通して、学びを深めることができる子ども」

自分と異なる考えを取り入れ、さらに自分の考えを広げる・深める

なかまと対話する活動を通して、授業のよさを実感する

授業実践 「伝える力」「聞く力を育み」、互いの考えを共有し合う授業展開の工夫

実践の場

- 各教科の学習・道徳
- 学級活動・総合的な学習
(行事に向けた取り組み)

伝える：相手の考えと比べながら伝える
聞く：自分の考えと比べながら聞く

伝える：相手の考えや思いを的確な言葉で表現して伝える
聞く：相手の考えや思いを否定せずに受け止めて聞く

思考ツールの活用

常時活動 互いに認め合い、安心して生活できる学級の基盤づくり

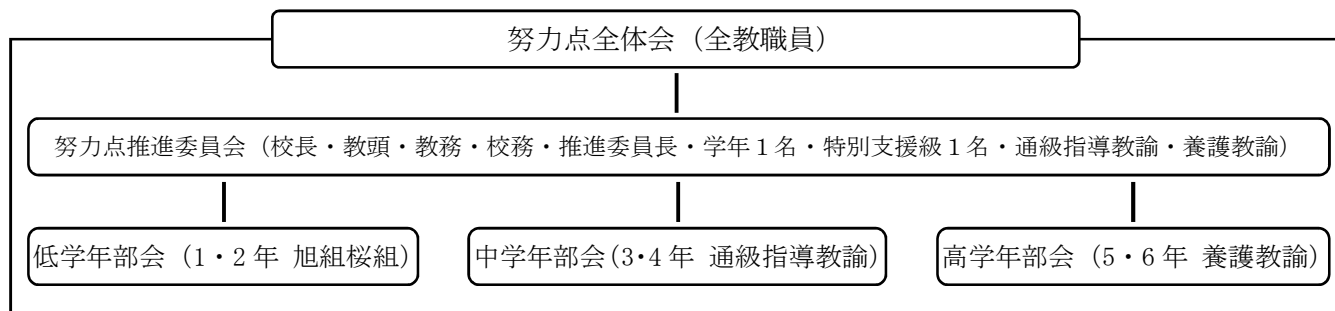
活動の場

- 朝の会・帰りの会
- 業前タイム
- 係活動・当番活動
- 給食の時間や清掃時間
- 休み時間

- ◎ プロジェクト活動（日常生活での取り組み）
- ◎ ソーシャルスキルトレーニング（SST）

伝える：相手の思いや考えを否定せずに、自分の思いや考えを伝える
聞く：自分の思いや考えと相手の思いや考えが異なっても、受容的・共感的に相手の話を聞く

4 推進の組織



5 推進方法

以下の方法に基づき、努力点での取り組みを推進していく。

- 各学年で年間の努力点推進計画を立て、計画的に実践を進める。
- 各学年で代表授業者を1名ずつ決め、年1回授業を公開する。
- 授業公開の時期が集中しないよう、部会内で調整して実施する。
- 授業実践にあたり、各部会を中心に、事前検討・事後協議を行う。
- 年度末には最終報告書を作成して、努力点の振り返りを行い、研究をまとめる。

6 年間計画

月	日	曜日	努力点に関わる予定	主な内容
4	11	月	努力点推進委員会	○ 推進方針の決定・アンケート内容検討
4	14	木	努力点全体会	○ 推進計画の共通理解
努力点アンケート実施 (5月中)				
事前検討・授業実施・事後協議 (随時)				
7	7	木	努力点部会	○ 常時活動についての進捗状況の確認・情報交換
事前検討・授業実施・事後協議 (随時)				
10	13	木	努力点部会	○ 常時活動についての進捗状況の確認・情報交換
12	1	木	努力点推進委員会	○ 最終報告書案検討・アンケート内容検討
1	12	木	努力点部会	○ 最終報告書の作成について・情報交換
努力点アンケート実施・最終報告書の作成 (1月中)				
2	9	木	努力点全体会	○ 1年間の実践の振り返り
3	20	月	努力点推進委員会	○ 来年度の方向性について